KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／一般社団法人 京都府医師会
これだけは知っておきたい
健康の知識
VOL.80

難聴

大丈夫ですか？ あなたの「聞こえ」

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／一般社団法人 京都府医師会
これだけは知っておきたい
健康の知識
VOL.80

「聞こえ」は大切です！

「聞こえ」は五感のひとつであり、人間にとって非常に大切なものであります。「聞こえ」が悪くなると会話に参加することが面倒となり、周囲の人々と交わる機会が少なくなります。このような状態が長く続くと抑うつ状態や不安状態となり、次第に認知力が悪くなってしまいます。将来の認知症を避けて、落ち着いた社会生活を過ごすためにも「聞こえ」を保つことが大切です。今回のBe Wellはこの難聴について説明します。

「耳鳴り」を治しましょう！

耳鳴りも「聞こえ」の障害から起こることが多いようです。したがって、耳鳴りの治療は難聴の治療と同じです。耳鳴音の高低や強さを調べることにより、「聞こえ」に関する病気の発見ができます。

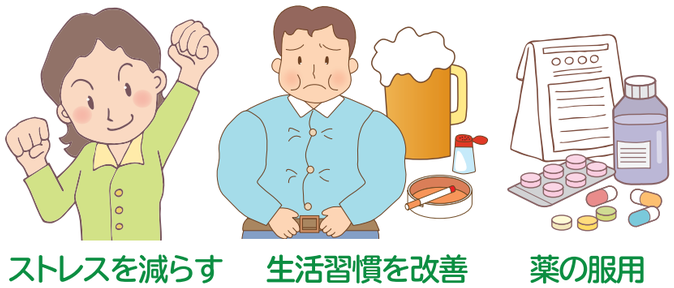
1. 低い耳鳴音

低い音の耳鳴音は、外耳道や中耳の病気から発生する場合が多いので、病気によって生じた耳鳴りであれば治療により改善されます。

2. 高い耳鳴音

高くて大きな耳鳴音の場合には、聴神経の通路である頭部の病気がないことを確かめなければなりません。頭部に病気が無い場合には、音を受けとめて電気信号に変える感覚細胞や電気信号を伝達する聴神経の疲労や障害があります。この場合には薬の服用が必要となります。

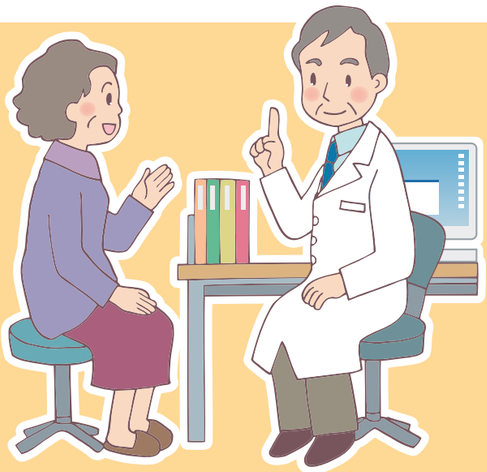
いずれの耳鳴りでも、生活習慣などの身体的状況を整えることが非常に大切です。耳鳴りも「聞こえ」が悪くなった時におこる症状のひとつですから、いろいろな方面から治すことが大事となります。



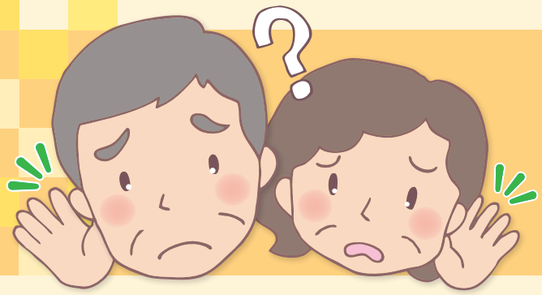
大切なあなたの聞こえ

不安があれば医師に相談しましょう

「聞こえ」について少しでも不安があれば、医師に相談してください。「聞こえ」の状態を調べて治す方法がわかります。「聞こえ」を改善して保つことにより、健やかな生活を過ごしていただきたいと思います。



一般社団法人 京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東栂尾町6 TEL:075-354-6101(代表)
<ホームページ>http://www.kyoto.med.or.jp <E-mail> kma26@kyoto.med.or.jp
発行 SUMMER 2017

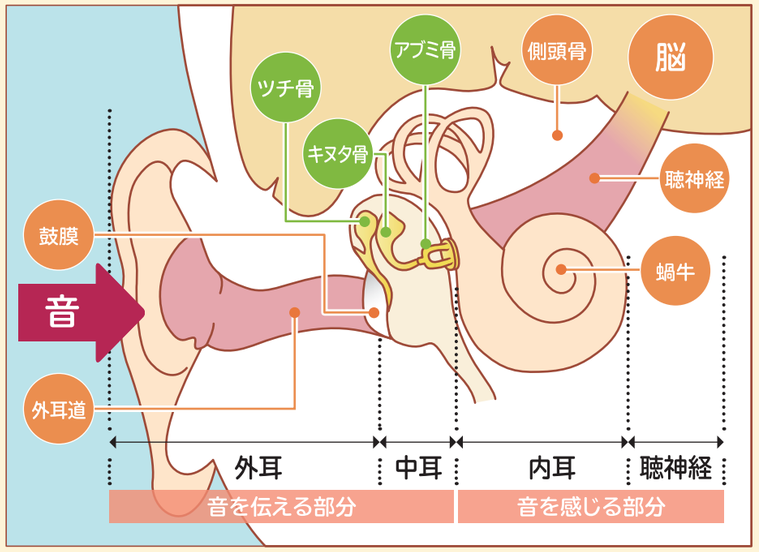


「聞こえ」をチェックしましょう!

「聞こえ」を保つことができているかどうかを調べるために、まず「聞こえ」のチェックを受けなければなりません。「聞こえ」のチェックには、**①障害の部位を調べる検査**と**②障害の程度を調べる検査**があります。

1 障害の部位を調べる検査について

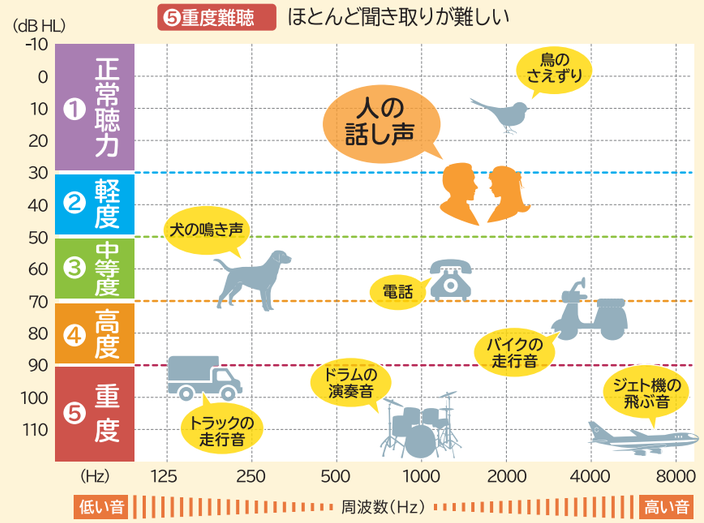
耳の穴(外耳道)を通して音を聞く検査と骨(側頭骨)から音を振動で聞く検査があります。耳の穴から音を聞く検査結果が悪くて、骨から振動で音を聞く検査結果が良い場合は、音を伝える部分(外耳道と中耳)に障害があります。外耳道が耳垢や異物で閉塞した場合や中耳炎による場合などがあります。耳の穴から音を聞く検査結果と骨から振動で音を聞く検査結果の両方ともが悪い場合は、音を感じ取る部分(内耳と聴神経)に障害があります。加齢に伴う難聴や突発性難聴があり、聴神経腫瘍などの頭部の病気もあります。



2 障害の程度を調べる検査について

聞こえる音の高低や聞こえる音の大小を調べる検査があります。低い音が聞こえにくく高い音が聞こえる場合は、音を伝える部分の障害であることが多いようです。逆に、低い音が聞こえて高い音が聞こえにくい場合は、音を感じ取る部分の障害であることが多いようです。また、聞こえる音の大きさにより、**❶正常聴力**・**❷軽度難聴**(30dB～50dB)・**❸中等度難聴**(50dB～70dB)・**❹高度難聴**(70dB～90dB)・**❺重度難聴**(90dB以上)に分けられます。軽度難聴までの音の大きさ(約50dB)が日常会話で使用する人の声の大きさとなります。聞こえる程度の差によっても、耳の病気の種類や進行度を知ることができます。

❶正常聴力	よく聞こえる
❷軽度難聴	小さい声や騒がしい所での会話が聞き取りにくい
❸中等度難聴	普通の会話でよく不自由を感じる
❸高度難聴	耳元に口を近づけないと大声でも聞き取りにくい
❺重度難聴	ほとんど聞き取りが難しい



「聞こえ」を治しましょう!

「聞こえ」をチェックすることにより、難聴をきたす病気のタイプや難聴の程度を知ることができます。このことから難聴をきたしている病気の治療が可能となり、聞こえを回復することができます。外耳道にある耳垢や異物であれば除去します。中耳炎であれば処置や薬の服用あるいは手術により治療されます。突発性難聴とわかれば、内服や点滴による治療を行います。頭部の病気であれば、いろいろと調べたうえで治療が可能となります。他にもたくさん耳の病気はありますが、それぞれの病気に対する治療をして、**「聞こえ」を取り戻すことにより快適な社会生活ができるようになります。**

「聞こえ」を保ちましょう

治療した後で**「聞こえ」**の程度に変化のない場合には、聞こえる音の大小や高低に合わせて補聴器を使用します。左右片側の耳や両側の耳に補聴器を使用することにより音を聞き取ることができます。補聴器の効果を調べるために、言葉の聞き取り検査を行って最も適した補聴器を選びます。難聴が非常に重度であれば、障害のある内耳に代わって人工内耳という器具を入れる場合もあります。

医師と相談して、症状に応じた適した方法を選び「聞こえ」を保ちましょう!